

講座名	ブラームス「二重協奏曲」の謎
講師名	西原 稔(桐朋学園大教授) 清水 英理子(ヴァイオリン) 山本 栞路(チェロ) 市川 高嶺(ピアニスト)
講座案内	<p>ブラームスの作品の中でも「二重協奏曲」は多くの謎を秘めています。この作品は単にヨアヒムとの「和解の協奏曲」にとどまらず、ここには彼の「チェロ協奏曲」の構想と、彼がその前に完成した「ヴァイオリン協奏曲」と「チェロ・ソナタ第2番」の発展の意図もあったとように思われます。雄大な構想の作品ですが、なぜかクララ・シューマンをはじめとして初演時における作品への評価は低く、今日でもそれほど演奏の機会は恵まれていません。このレクチャー・コンサートではこの協奏曲を詳しく解説するとともに、ブラームス自身が編んだ「ピアノ三重奏版」と、ブラームスが高く評価したキルヒナー編曲の「弦楽6重奏曲第1番」(作品18)の「ピアノ三重奏版」をご鑑賞を頂きたいと思います。 (講師・記)</p>
日程	2020/5/9
曜日・時間	土曜 13:30~15:00
回数	1回
受講料(税込)	会員 4,180円 一般 5,280円
教材費(税込)	-
講師詳細	<p>西原 稔(ニシハラ ミノル) 山形県生まれ。東京藝術大学大学院博士過程満期退学。現在、桐朋学園大学音楽学部教授。18、19世紀を主対象に音楽社会史や音楽思想史を専攻。「音楽家の社会史」、「聖なるイメージの音楽」(以上、音楽之友社)、「ピアノの誕生」(講談社)、「楽聖ベートーヴェンの誕生」(平凡社)などの著書のほかに、共著・共編で「ベートーヴェン事典」(東京書籍)、監訳・共訳で「オペラ事典」、「ベートーヴェン事典」(平凡社)などがある。現在、シューマンとブラームスに関する著作に取り組んでいる。</p> <p>清水 英理子(シミズ エリコ) 桐朋学園女子高等学校音楽科、桐朋学園大学を首席卒業。皇居、桃華楽堂にて、御前演奏。 全日本学生音楽コンクール全国大会第一位。第66回日本音楽コンクール(共に毎日新聞社主催)第1位、増沢賞受賞を始め、国内外の音楽コンクールに入賞。宮崎国際音楽祭、十勝ひろびろ音楽祭、鎌倉ソリステンなどに出演。 (旧)カザルスホールでのリサイタルや、仙台国際音楽コンクール、オープニングコンサートでの仙台フィルとの協演は、音楽雑誌「音楽の友」にて、高く評価された。その</p>



他、(現)日本センチュリー交響楽団、東京シティフィル、東京交響楽団、等と共演。現在は、ソロ、室内楽の演奏活動を行いながら、全日本学生音楽コンクール(毎日新聞社主催)の審査員を務めるなど、後進の指導にも力を注いでいる。<https://eriko-violin.com>

山本 栞路(ヤマモト カンチ)

3歳よりスズキ・メソードにて寺田義彦氏のもとチェロを始める。桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」を経て桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)卒業。第13回泉の森ジュニアチェロコンクール小学生の部金賞、第16回同コンクール中学生の部金賞。第73回全日本学生音楽コンクール高校の部東京大会第1位、全国大会第1位。第99回桐朋学園室内楽演奏会出演。2019年度チェロアンサンブル・サイトウ奨学生。同年小澤征爾音楽塾生。学習院初等科父母会長賞、東京私立中学高等学校協会賞、東京私学財団文化・スポーツ活動賞、合気道初段。現在北本秀樹氏に師事。室内楽を磯村和英、山崎伸子、藤井一興、練木繁夫各氏に師事。4月より桐朋学園大学に特待生として入学。

市川 高嶺(イチカワ タカネ)

桐朋女子高校音楽科、桐朋学園大学、同研究科を修了後、パリ・エコール・ノルマ音楽院、スイスのベルン高等音楽院で研鑽を積む。UFAM国際音楽コンクール室内楽部門第1位、フランスの音楽祭などでのコンサートに出演。ザルツブルガー・ゾリステン、ワルシャワ・フィル・コンサートマスターズと共演、ポーランド・シレジアフィルハーモニー管弦楽団とシューマンのピアノ協奏曲を共演。2018年、東京文化会館にてリサイタルを開催し好評を博す。2019年、リサイタルのライブCDをリリース。「音楽現代」にて準推薦盤に選ばれる。これまでに、アラン・ムニエ(Vc)、二宮和子(CI)、林峰男(Vc)などの各氏と共演。近年は趣味の登山から山小屋などでのコンサートにも積極的に取り組む。また、2017年にはクラリネット左藤博之、林裕子とトリオ「Bavardage」(ババルダージュ)を結成し、全国で定期的な演奏活動も行っている。これまでに、鍵岡眞知子、有賀和子、アンドレ・ゴログなどの各氏に師事。現在、ショパン国際ピアノコンクール inASIAなどの審査員を務め、伴奏・室内楽で活躍する傍ら、自身のピアノ教室にて後進の指導にも力を注ぐ。公益財団法人日本ピアノ教育連盟会員。